

受付No.

2026年度 アートによる地域振興助成（一般）

公益財団法人 福武財団 理事長 福武英明殿

募集要項に則り、本応募用紙に記載した通り、標記助成に応募いたします。

<団体プロフィール>

団体名	一般社団法人 釜川から育む会				
住所	〒320-0804 栃木県宇都宮市二荒町8-15 KAMAGAWA POCKET				
団体区分	一般社団法人	スタッフ数	33 名		
代表者氏名 (カナ)	ナカムラ シュウ	役職	代表理事	年代	30代後半
代表者氏名	中村 周				
団体URL1	https://kamagawapocket.com/				
団体URL2	https://twitter.com/kama9rischool				

<申請者・実務担当者> ※団体所在地と同じ場合は「同上」*申請者には、助成に関する諸手続きの連絡担当者の名前を記入してください。

申請者氏名 (カナ)	イナコシ マコト	役職	事務局長	年代	30代前半
申請者氏名	稲越 誠				
連絡先 e-mail	kama9ri@gmail.com	電話番号	090-9668-5277		
住所 (書類の送付先)	同上				

<プロジェクトリーダーの略歴> ※アートプロジェクト等の運営経験や当時の役割を記載してください。

氏名 (カナ)	氏名	役職/肩書	年代	
アオキ アキラ	青木 彬	インディペンデント・キュレーター	30代後半	
年 (西暦) 月	略歴 (活動内容)			
2017年2月	ソーシャリー・エンゲイジド・アート展 キュラトリアル・アシスタント			
2017年8月	黄金町バザール2017 アシスタントキュレーター			
2018年9月	「ファンタジア! ファンタジア」ディレクター			
2019年3月	KACレジデンス「逡巡のための風景」ゲストキュレーター			
2020年4月	東京ビエンナーレ2020/2021 ソーシャルプロジェクト アシスタントディレクター			
2022年3月	みんなでつくる釜川ミライ ver 0.1 アドバイザー			
2023年9月	カマクリミュージアム土と水の広場 企画監修			
2024年4月	「釜川クロッシング!」(福武財団助成事業) 企画協力 (今年度も継続)			
2024年10月	「SENSE ISLAND/LAND」ゲストキュレーター			
2025年4月	「すみだ五彩の芸術祭」ディレクター着任			

<福武財団の助成実績>

助成を受けて活動した年度
2024年度, 2025年度

<外部協力者の状況>

氏名	年代	組織名	所在地 (市町村まで)	協力内容 (できるだけ具体的に)
広瀬 一郎	60代前半	釜川プロムナード整備協議会	栃木県宇都宮市	釜川プロムナード整備協議会 (地元街づくり組織) 会長。レジデンスに隣接するふれあい広場の草木を管理。周辺団体・住民の仲介等
カマクリ協議会	それ以外	カマクリ協議会	栃木県宇都宮市	宇都宮市、自治会、商店会、大学関係者、有識者等による協議会、地域関係者との調整、生物や植物等の専門家による助言
宇都宮市NCC推進課	それ以外	宇都宮市 NCC推進課	栃木県宇都宮市	官公署調整、占有許可等、各種許可申請への助言・受付
宇都宮美術館	それ以外	宇都宮美術館	栃木県宇都宮市	プロジェクト実施に関するリサーチ、広報周知、イベント実施等における連携
宇都宮メディアアーツ	それ以外	宇都宮メディアアーツ	栃木県宇都宮市	プロジェクト実施に関するリサーチ、広報周知、イベント実施等における連携

<活動内容・事業計画について>

表現手法	アーティスト・イン・レジデンス
活動テーマ	街中（の地域振興）
事業名	釜川クロッシング!
2026年度の活動期間	2026/04/01 ～ 2027/03/31
活動に従事するスタッフ数	33名

1. 団体の活動の概要

<p>釜川および、その周辺地区に関心のある会員が連携し、周辺住民や店主と協働しながら釜川地区の良好な環境形成を図り、魅力的で、活力のある地域を育むことを目的に、2017年4月より活動を開始。空き地、空き家、空きビル等を活用したクリエイティブ人材の活動、交流の場の形成や釜川の環境調査、学習イベント等を実施している。2020年10月からは、釜川周辺エリアにおける官民連携のプラットフォームであり、人や生き物が健やかに育まれる地域として持続させるとともに、居心地がよく魅力的な空間を形成することを目的とする「カマクリ協議会」に、釜川周辺エリアでまちづくり活動を行う地域団体として参画している。</p>
--

2. これまでの活動の沿革

申請事業の活動年数	7～10年
年（西暦） 月	活動内容
2017年4月	任意団体釜川から育む会 発足
2018年2月	Kamagawa city vision β版 発行
2019年9月	釜川周辺地区景観づくり推進協議会 参画
2020年10月	カマクリ協議会 参画
2021年11月	一般社団法人化
2022年3月	みんなでつくる釜川ミライ ver 0.1 完成（カマクリ協議会の事業として）
2023年7月	宇都宮市より都市再生推進法人に指定
2024年4月	釜川クロッシング！（福武財団助成事業・2025年度も継続実施中）
2024年11月	国土交通省 令和6年度「地域づくり表彰」地域づくり表彰審査会 特別賞
2025年5月	下野新聞社主催 第7回「とちぎ次世代の力対象」 優秀賞

3. 活動エリアについて

活動エリア	栃木県 栃木県宇都宮市釜川周辺エリア
活動エリアの特色（歴史、文化、地域性、魅力など）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動エリアを流れる釜川は、市内で完結する一級河川。下流部は、度重なる洪水を契機に日本で初めて二層化式河川工事が行われ、水と緑が感じられる水辺空間が整備される。 ・釜川では、過年度の弊会の調査で、絶滅危惧種が上流で多数確認されている。また、都市河川であるものの、在来植物が多数生育している。 ・釜川沿いでは明治から昭和にかけて、宮染めの染工場が立地し、染織工芸が盛んであった。また、戦後に赤線地帯として栄えた時期もあり、その界隈性も残る。 ・官民連携のカマクリ協議会のほか、ふれあい広場を管理する釜川プロムナード整備協議会、更には、地元ミュージックバー等が起点となったクリエイターのコミュニティがある。
活動エリアの課題（まず初めに、活動エリアにおける課題を簡潔にご記載ください。続けて、その課題の背景や詳細について、できるだけ具体的にご記入ください。）	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市の中心市街地に位置するエリアであるが、2021年の調査で、建物の約2割が、空き家、空き室、空きテナントであり、近年その数が増加。 ・釜川は、まちなかにおいて水と緑が感じられる貴重な空間であるものの、二荒山神社やオリオン通り等、近隣の観光エリアと比較して、その知名度が低い。 ・郷土資料館等が無く、地域の人々はもちろん、地域外からの来訪者や招聘クリエイターが地域の歴史を学ぶことが難しい。 ・宇都宮市美術館では、現代アーティストを招聘し地域団体と協働しながら地域資源をリサーチする地域連携プログラムの実績があるが、2017年以降実施されておらず、今後も実施の意向はあるが企画がない状況である。
貴団体の地域に対するミッション（活動の目的）	<p>釜川流域で人や生き物が健やかに育まれる空間を創出することを目指し、これまで交わることの無かった動植物・土地活用・歴史・アートなどの分野の専門家を招聘することで地域の魅力を多角的に考察している。そのために官民連携を実現し、公共空間の活用など民間の力だけでは実現しにくいアプローチにも積極的に取り組むことで、地域活動の担い手の育成にも繋げている。また、弊会の調査で、絶滅危惧種の生息が確認できるなど、豊かな生態系があることが判明してきた。このような釜川が持つ豊かな生態系を手掛かりに、地域の特性をクリエイターとともに発信し、人と生き物がより良く共生することができる空間づくりを行う。</p>

7. 2026年度のプロジェクト評価の観点や指標をどのように設定しますか。

定性（状态的な目標）、定量（数値的目標）をお書きください。

①ワークショップ参加者：45名（ワークショップ1回あたり15名を想定）

②展示お披露目会参加者：50名

→各ワークショップやイベントを通じて、参加者へのアンケートも実施。今回の活動参加を通じて、釜川の文化活動や取組への興味が増えたか？、今後もこのような活動に関わりたいか？等、活動を通じた関係人口創出に向けた参加者の主観の変化も把握する。

→また、本取組を地域内外の著名なアーティスト、活動地域の方に紹介・案内する企画も検討し、より広範な方々への取組発信の呼び水や、その後の活動相互連携等のきっかけ作りも目指す。

③SNS：総表示・閲覧数30,000回（1投稿あたり平均1,500回表示・閲覧、20回程度の投稿を想定）

→当会のSNS（X：フォロワー数6,905人、facebook：フォロワー数610人、Instagram821人）やWebサイトを活用し、各種プログラムや展示の告知・結果報告を行い、事業全体の認知度・関心を向上する。

④アーカイブ化された文化資源数：5

→過年度より釜川周辺の文化資源を元に、アート作品としての創作、発信、アーカイブ化を続けているが、2026年度の活動も通じて、その蓄積を図る。

8. 2026年度の翌年以降の、地域に持続的に関わる中期計画と将来ビジョンをお書きください。

※一般申請者は、その計画・ビジョンの展開がこれまでの活動の積み重なりどのように紐づいているかと、その展開に事業や運営体制をどのように反映していくかについてもお書きください。

2025年度ではアーティスト・イン・レジデンスの本格的な運用を開始することができただけでなく、招聘アーティストの提案から関係者を巻き込みながら釜川でのアクティビティ開発を行なっていくとする動きも生まれるなど、滞在ならではの成果を感じつつある。また、本助成プログラムの一環として視察いただいた山出淳也氏からのフィードバックや他団体の活動を知ることでも得られたアートプロジェクトに関する知見も大きい。こうした出会いを機に本事業メンバーで別府市への視察を11月に予定しており、自分達の事業を振り返る機会を作っている。

こうして本事業の可能性を考察するなかで、具体的な中長期計画として、「官民連携まちなか再生推進事業」の一環としてエリア内にある文化施設や当団体が運営に関わる施設を繋ぐ拠点連携ビジョンの検討・策定を行なうために、プロジェクトリーダーの青木彬氏には調査業務も委託予定。アートの視点からの拠点連携を検証しながら、2026年の本事業で着手するポケットパークづくりをはじめ、先述のまちなか再生推進事業として近隣の倉庫物件の利活用なども実現すれば同エリアの文化度をより高めていけるだろう。

さらに昨年度までの課題でもあったコーディネーター人材の確保については、宇都宮市文化振興課の元職員がコーディネーター業務を引き受けてくれており、地域の文化的資源に対する知見や渉外活動において重要な役割を果たしてくれた。同コーディネーターだけでなく、より広く地域の人々がプロジェクトの担い手となってもらえるように、人材育成の視点でプログラムづくりも行っていくことで、プロジェクト運営の自律度を高めることも目指す。

9. 2026年度以降、複数年の助成を希望していますか？

はい

<活動の様子>



釜川下流部の8拠点を中心に、釜川特有の界隈性に着目し活動展開しており、来年度もその拠点を拡大していく



これまで釜川周辺の空きバロックのリノベーションや空き地でのアート展示、生物調査や草木染めWS等を実施



昨年度より安藤隆一郎氏を招へいし、自然環境や宮染め文化等の調査と作品創作を通じたアーカイブ化を継続

